

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473400453	事業の開始年月日	平成16年7月1日
		指定年月日	平成22年7月1日
法人名	株式会社アルテディア		
事業所名	グループホーム笑楽庵		
所在地	(246-0025) 神奈川県横浜市瀬谷区阿久和西2-39-10		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年2月20日	評価結果 市町村受理日	令和4年6月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の個々の能力にあった生活が送れるように出来る事をして頂き、やりがいを見つけられる環境作りに努めています。
自治会の行事参加や近隣の方、保育園等の交流を大切にして楽しんで頂いています。
利用者の発見や刺激の為、外出レクやホーム内のレクを様々なやり方で工夫して実施しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年3月21日	評価機関 評価決定日	令和4年5月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、相鉄線「三ツ境」駅前から神奈中バス乗車8分、「向原」バス停下車すぐです。住宅街の中の、2階建ての外壁が2色からなる明るい外観の建物です。南側にウッドデッキがあり、来客用駐車場も完備しています。

<優れている点>

法人の理念に加えて事業所では、「夢がかなう家、なんでも言い合える場、ほのぼのした暖かい家族」を目標にし、行動指針やその年の重点方針も定めて、職員はこれらを理解しながら入居者支援にあたっています。コロナ禍のためイベントの中止や入居者の外出がままならない中、職員は、毎月様々なレクリエーションを企画し毎日の生活が楽しく笑い声が絶えない「家庭」であるように努力しています。管理者は常に職員が理念・目標を認識して実践できるよう、充実した事業所内研修を実施しています。研修資料は管理者自らが、専門性が高い内容でありながら分かり易いものを作成し、研修にあたっては職員が持ち回りで講師を務めるよう促すなど、職員がモチベーションを高く維持して業務を行うよう支援しています。

<工夫点>

事業所内に、リスク委員会、レクリエーション委員会などいくつかの委員会を設けています。職員は必ず複数の委員会に所属し、事業所の課題やイベントの企画、事故防止などについて自発的に考え、検討し、提案することにより事業所全体の介護サービスの向上に繋げています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム笑楽庵
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関に掲示、出入り時に目に付くようにしている	理念、目標は掲示し周知しています。毎年重点方針も設けています。職員は、研修や会議での話し合いを通してこれらを常に認識し共有しながら、事業所の名称どおり、「笑→笑い顔の絶えない」、「楽→楽しい」、「庵→家」であるように実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、定例会に参加している。また定期的なイベント、当施設にて行う行事等の案内をしている また、定期的に運営推進会議を行い参加をして頂いている	自治会を通じて地域の情報を得るとともに事業所からも行事などの案内をしており、災害時の避難場所としての役割も担っています。コロナ禍で、地域交流の行事は中止となっていますが、近隣保育園やボランティアとの関係は継続しており、コロナ収束後は再開は可能となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等にて質問に積極的に回答している 徘徊老人の保護、対応を行っている 自治会に対し、災害時の場所の提供を申し出ている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自治会長、地域包括支援センター職員、ご家族様等に参加をいただき、当施設の報告、また地域の情報を受けたり等、質問にも積極的に回答したりと、定期的に交流を図っている	地域住民による出席を得て、短時間ですが定期的に事業所内で開催しています。コロナ禍で入居者の外出が困難な状況とその対応策の説明や、外部のレクリエーションの情報提供など意見交換を行っています。会議録は事務室で保管し、いつでも閲覧できるようにしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	高齢支援課（保護担当者）との連絡また来庵等により交流を持っている 消防署、区役所等が開催している研修、連絡会等に積極的に参加している 当施設で避難訓練を実施し、その際消防署に連絡参加を頂き指示を仰いでいる	介護認定手続きや運営推進会議の議事録の送付、ケースワーカーとの相談など複数の部局と定期的に連絡、報告、相談を行っています。特に毎年避難訓練では消防署の協力を得て訓練を行い、訓練後には講評を受けるなど、地域に密着した連携を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	研修等を行い、普段から意識を持ってケアを行っている 3ヶ月ごとに、身体拘束廃止委員会を開催している	身体拘束廃止委員会を定期的を開催しています。言葉での拘束「スピーチロック」に留意しています。入居者の言動を拒否しない姿勢、声掛けの工夫などを話し合っています。その他、テーマを随時設定し話し合い理解を深めています。玄関は防犯上原則施錠ですが、いつでも開錠できる環境となっています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修等を行い、普段から意識を持ってケアにあたっている スタッフ同士での注意、声掛けを行っている	身体拘束廃止委員会の開催日に合わせて研修を実施しています。何が虐待に当たるかを事例を踏まえながら話し合い、判断が難しい状況についてなど特に意識の統一を図っています。不適切なケアに気がついた場合は、職員同士で話し合い、再発防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を行い、意識を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、契約書及び重要事項説明書の各項目について、入居者様及びご家族様に読み上げ、説明を行い、質問等も受けている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	普段からの良好な関係性の構築に努め、要望、意見等積極的に聞き入れ対応を行っている。またご家族様に対して満足度調査も行い、結果を反映している 苦情等があった際には、敏速に対応を行い、会議を開催しご家族様の意見を反映している	運営推進会議開催時に意見を聞いています。現在はコロナ禍のため来訪は制限していますが、差し入れなどでの来訪の際は面談をしています。毎月送付する便りにも近況を詳細に記載しています。家族に満足度調査も実施しており、床の汚れの清掃の徹底の意見には直ぐに対処しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に、個人面談を行っている、また普段から話しやすい雰囲気作りに心掛けている。相談事等に対しては、時間を取り話を聞き、助言等を行っている。会議を定期的に行い話し合いの場を設け意見の取り交わしを行なっている	全体会やフロア会議や個人面談で意見交換し、事業所内のリスク、記録、広報、防災、美化、レクリエーションの各委員会を設けています。職員は複数の委員会に所属して、指示待ちではなく自らが課題を考え、検討、提案できる仕組みを整えています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人目標、個人考課を行いやりがいに繋がられるよう、支援を行っている 希望休を聞き、シフトの反映している	四半期ごと及び年度末に1回、職員の良い所に着目した人事評価を行い、ボーナスや昇給に繋がっています。ストレスが原因で不適切なケアにならないよう、管理者は職員と随時面談して話し合い、年休の取得や勤務シフトへの要望、時間外勤務の縮減にも取り組んでいます。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修や、また外部研修の積極的な投入を行っている また個々の職員の質問にはその都度回答している 施設内研修に関し、固定の研修についてはスタッフ交代にて講師を努めている	管理者は、職員の育成計画を念頭に置きながら、研修の充実化に取り組んでいます。職員は交代で研修の講師をしたり、委員会活動に参画するなど、自主性を育む工夫をしています。能力向上と意欲を高めるため、外部の研修への参加も促しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修等の積極的な投入により、外部との交流の場を設けているが、コロナ過において思うようにできていない		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前カンファレンスの際、契約時、また適時要望等が出された場合には顕著に聞き答えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前カンファレンスの際、契約時、また適時要望等が出された場合には顕著に聞き答えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	要望の聞き入れを行い当施設で出来るサービスとの整合性についてお互いが納得のいくよう話し合いを行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	積極的な関わりの中で、本人の出来る事を見つけ、行って頂く。また解らないこと、今まで培ってきた知識等聞き教えていただいたり、一方的な支援ではない関わりを持っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族からの要望を聞き、ケアに活かす。また家族との外出、外泊等についても依頼、支援を行っている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人、知人、家族の面会を密に持っていたり、外出の機会を作っていたり、家族に話をしている、また実際に外出等により関係性を築いている	コロナ禍のため、面会や外出・外泊は困難ですが、知人・友人との関係継続のために入居者の気持ちに寄り添い、電話の取り次ぎや、手紙のやり取りの支援をしています。コロナが沈静化した場合は、来訪者への湯茶の接待など従前どおり対応していく予定です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が積極的に作業の担当などを話し合ったり、指示したり出来るように支援を行っている。「私これをやるから、そっちのをやってくれる？」また入居者様同士で「～さんこれお願い」等のキャッチボールが出来ている。ゲーム等についても利用者同士の声掛けにて行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	電話等により、近況報告や問い合わせ等も来ており、真摯に対応している		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の行きたい場所、食べたい物等を聞きレクリエーション（外出レク）等に反映している。また趣向品については家族に依頼をし、できる範囲内での購入や、持参して頂いている	入居者のいつもと違う様子や雰囲気をいち早く気づくように心がけ、その状況・原因を把握し対応しています。「娘に会いたい。」の思いを聴き電話に繋げたり、不機嫌な発言の時には言葉かけを工夫しながら傾聴し寄り添う支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントを行い、把握に努めている、また普段の生活場面にて、ご本人及びご家族様とも会話にて情報を収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出来る事の把握を行い、手伝い等に活かしている 日中居室にて過ごされている際には、時折お邪魔し、声掛け様子観察を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議、普段からのご本に、ご家族様とのコミュニケーションにて得られた情報、Drからの情報、を踏まえ介護計画を作成している	職員全員が介護計画に関わる意識をもちケアマネジャーを中心に作成しています。モニタリングをし、記録や家族などの意見を元に課題を明確にして6ヶ月ごとに見直しています。看護師との連携で嚙下訓練に取り組み、飲み込みが改善した事例もあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録の充実を図り、随時のケアカンファレンス、本人の訴え、ご家族様の要望等を活かし計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人のペースに合わせ、規制することなく支援を行っている、また、レク等もご本人の要望に応えるよう努力を行っている 出来ないではなく、どうすればできるかの考えのもと、一人一人のニーズに対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	外出レク等に活かしている		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人の訴え、スタッフの異変の察知に心掛けその都度、往診医に連絡し、往診及び指示を頂いている また、往診医の指示、ご家族様の要望の元適時外部受診も行っている	施設訪問医をかかりつけ医とし、月2回の診察を受けています。訪問前日に薬や気になる事項を伝え、結果を記録に残し、家族に毎月の便りで知らせています。月1回訪問医より「居宅用管理指導書」が届き、看護師、職員が共有し相互の連携体制が取れています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師との連携を持って、支援を行い、異変時については往診医への連絡を素早く行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様との連絡、病院相談員との連絡等を行い、情報の収集に努め、また面会などによるご本人の状況の確認を行っている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様、往診医と話し合いを行い、看取りの指針を確認している（可能であれば、ご本人にも同席、説明を行っている）	「重度化した場合・看取り」の指針があり入居時に説明をしています。状態の変化に合わせ医師と家族と職員が話し合い、今後の方向を決めています。看取りを行う場合には「看取り契約」を締結し、家族と一緒に最期まで見守っています。職員は研修で更に意識を深めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	心臓マッサージ、AED使用方法等をダミーを使い定期的に行っている また、消防署の研修にも積極的に参加している 当施設での避難訓練の後、消防署員により研修を行っていただいている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域消防署員同席、指示を頂いて定期的に入居者様、近隣住民、職員参加により避難訓練を行っている また、自治会による避難訓練にも参加している 災害時用の非常食の備蓄も行っている	消防署指導の避難経路や動きを考えた図面訓練と、消防署長の立ち合いの下で行う地震火災訓練を年2回実施しています。地域の避難場所として受け入れ体制を整え、自治会の回覧で地域の参加を呼びかけています。食品・消耗品の備蓄追加の計画もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の要望に合わせ、個人を尊重した声掛けを行っている 居室に入る際には必ず声掛け、伺って入室している	家庭で過ごしているような環境作りに努め人格を尊重しその人に合わせた支援をしています。遅い朝食、外での日向ぼっこ、読書三昧の人など、各自の生活習慣やペースを大切にしながら対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人を尊重し、本人に合わせた支援を行っている。「ダメ」等の否定語は使用しないように心掛けている。言葉により表現できない入居者様については、普段のかかわりの中から態度、表現方法を汲み取り支援に生かしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	何時までにこれをしなければいけないではなく、ご本人のペース、その人の時間にお邪魔するような考えで支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自立の方は、自身で選択し更衣を行っている。自立ではない方については、更衣の際、被服を見せ選択して頂いている。また購入する際にはご本人様に好きな物を聞いたり、ご家族様に好みを問い合わせるなどしている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	栄養士が作成したメニューに沿って調理をしており、盛り付け等についても工夫をしたりと目からの食欲も促している。材料は業者発注となっており、メニューも決まっているが、届いた材料内にて工夫を行い、食べやすくしたり、手を加えるなどし、嫌いなものが食べられるようになったりもしている	業者に献立と食材を依頼しています。入居者は調理の様子を眺めたり、エプロンを付け食器洗い、配膳・下膳を自主的に行っています。行事レクリエーションで要望を聞きフルーツパフェ、カップラーメン、ピザなどを作っています。寿司や丼物を取り寄せて楽しむ食事に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	多種類をそろえ希望に沿った形で提供している。また往診医による栄養指導も受けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立の方には声掛けを行い、自立でない方には支援を行い、些細な気づきについてもご家族様に連絡の上、ご本人に説明し、往診歯科に連絡受診をしていただいている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	リハビリパンツ使用者について、トイレ回数の少ない方については、定期的に声掛けを行いトイレにてパッド交換を行っている。また自立者でない方についても、トイレ時のズボン、下着の上げ下げは声掛けにて行えるよう促している	経過観察記録に排泄方法、尿、便、形状、量を記入し、そのチェック表を元に声掛けし促しています。入居者が「この人、トイレに行きたいようだよ。」と知らせてくれることもありませす。ケア時の気づきは申し送りに記入し自立排泄の改善に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取の声掛け、廊下などの歩行の声掛け（付添にて歩行練習）等を行っている。またラジオ体操等も取り入れている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日入られる方や、その人の要望に合わせて、日にち、時間等は決めていないが、拒否の強い方については、バスクリン等を入れるなど工夫をし自ら入っていただけるよう考慮している	入浴は、入居者の状態や希望に合わせて曜日、時間を決めずにその度、湯を張り替えて実施しています。基本は週2回とし、毎日入浴する入居者もいます。入浴を嫌がる利用者には、言葉かけを工夫し促しています。車いす使用の入居者には、2人介助で安全に入浴支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入眠時間や、消灯時間を特に決めておらず、居室にてテレビを見たりされており、その時々その人の生活を尊重している、起床時間についてもその日の気分によって起床されており、朝食時間も基本時間はあるが強制はしていない		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の管理は常時薬局に依頼し、1週間分入居者様一人一人の配薬をされた状態で届けていただいている。最初に薬と一緒に薬事表が届くので、薬と一緒に合わせ確認を行っている。服薬時、入居者様の前で袋に記載されている、名前、日付を声に出し読み上げ確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個人の趣味を生かした支援を行ったり（塗り絵、読書）、手伝い（食事の盛り付け、掃除、洗物、片付け、洗濯物干し・たたみ）等を行っている また、率先して行えるようにもなっている（見守りは行っている）		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来ないではなく、どうしたらできるかを考え、出来るだけ要望に沿った形で支援を行っている（外出レク、内レク等）また、ご家族様に相談し同行を依頼している	天候の良い日は施設周辺の散歩で楽しめるように工夫しています。ウッドデッキや玄関先のイスに座って外気浴をし、気分転換も図っています。初詣や近隣の牧場でのアイスの購入、個別対応で買物などの外出支援も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	普段のおこずかいの保管は当方にて預かっているが、希望に沿って買い物等には同行したり、自身で使えるよう心掛けている。買い物レクを取り入れ、自身で好きなものを購入し、支払いも行っている（単独レク・同行）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけたいとの要望があった際には、電話を使っていただいております（自身にて掛けられない方には、当方でダイヤルし話して頂いている）、掛かって来た電話にもご本人に出ているようにしている 手紙のやり取りを行っている方もいる			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じさせるようなオブジェを作成し飾っている、またゆったり生活できるよう危険物には注意し、居たいところ、やりたいことを尊重している 入浴の際には、脱衣所の温度調節を行っている。トイレに関しては、常の窓をお開けしてしまう方がいらっしゃるため、常に見回り確認を行っている	入居者の笑顔やおしゃべり、笑い声が広がる家庭的な雰囲気になるように職員は意識して声掛けを行っています。壁にはレクリエーションで制作した作品を飾っています。廊下の隅のプライベートが保てる空間や、広いウッドデッキやベランダでは外気浴やお茶を飲んだりできるように、利用者が寛げるスペースを確保しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	好きな場所で、気の合った方と話し、ゲームなどをされており、見守りを行っている			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に使い慣れたものを持参して頂いたり、レイアウトについても本人の要望に合った形に変えたりしている	入居者のプライバシー空間を尊重した自宅のような居室となっています。エアコン、照明、クローゼットを備え付けてあり、タンス、机、冷蔵庫、仏壇など持ち込み、居心地良く過ごしています。時には居室に呼ばれ、不安や思いに寄り添い信頼関係を築いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来ない事ではなく、出来る事を見つけ、機能維持が出来るよう支援を行っている。実際出来ることが増えている。こちらからの声掛けをする事無く、自発的に動いてきている			

事業所名	グループホーム笑楽庵
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	誰でも分かる場所（玄関等）に表示し、常に確認をして把握している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に参加し、会長や近所の方とコミュニケーションを取り、イベント等に参加が出来るような環境を提供している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会主催の避難訓練等の実施参加にて認知症の理解をして頂く。自治会には災害時、避難場所として提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域自治会会長、入居者様のご家族、地域包括支援センター職員等の参加により、2カ月に1回開催している。(状況によっては3カ月に1回)		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域ケアプラザ、保護担当の方の来訪を受けたりと話し合いを行っている。消防署や役所等に相談したり連携を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修会を開催し、実施している。3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、実施している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修会を開催し、実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的に研修会を開催し、実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、契約書等を読み上げ説明及び疑問点の回答を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	サービス調査を行い、ご家族様の要望、意見等を反映また改善に向け取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の会議を開催し、話し合い、取り組みを行っている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人目標・個人考課表により、個々の水準の把握及び評価を行っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に内部研修を実施し、外部研修の機会を設けたり、個人の申し出による研修等も考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修等の積極的な投入により、外部との交流の場を設けている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人とアセスメントを行う。それ以外に本人の背景や感じている事、好きな事苦手な事を思い出話から読み取り、一緒に語り合う時間（これからの生活、現状等）を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族とアセスメントを取りそれ以外で現在困っている事、大変だった事等を引き出せるように話をしている。受け入れ態勢が出来ている事を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントを踏まえて希望や要望を含めたプランをカンファレンスし、1カ月プランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事と出来ない事をカンファレンスにて見出し、生活リハビリに生かして実施している。調理、掃除、得意分野等を共に行う事でお互いの必要性を感じる空間作りを意識づけをし、実施している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	小さな内容でも本人の状況を来庵時や電話連絡で報告している。困っている事がある場合も協力して頂く体制で相談して方向性を一緒に考えて進めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の会話を大切にして、いつでも近所の馴染みの方との交流補佐や行きたい場所を本人の負担がない様に状況に合わせて提供出来るようにしている(コロナ感染拡大の為、状況に合わせて支援している)。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格や背景を踏まえて、レクや生活リハビリを行っている。問題発生があった場合は、その場の職員が中止し、伝達後現状に合った支援方向を定め提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も困っている事や相談に対しては、出来る範囲の提供と配慮を行い、大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の要望や意向を聞きカンファレンスしケアプラン作成している。切り替え時は本人と話し次回のプランへつなげる。生活内での訴えは出来る限り提供し、困難な場合は本人又はご家族に相談して支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントやご家族の話、本人の過去の話聞き把握している。本人の好きな作業、苦手な作業等でポイントを置きながら一緒に行い小さな発見をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1日の行動記録や特変内容を申し送りし、変化があった場合は随時、連絡し合い、共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人とご家族の意見と職員からのケア提案、問題点、発見内容を踏まえてカンファレンスを行い、プラン作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	1日に行動内容やプラン内容の実施状況等に対しては記録している。問題解決等については現場のスタッフで案を出し、情報共有する為、口頭やサインで連絡し合い、実施に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況把握を行い、支援やサービスを迅速に実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	いつでも自治会や散歩時の挨拶、買い物等を行う機会が出来るように、安全な暮らしが保てる様に支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人又はご家族より受診の希望があった場合は訪問医に相談して必要性と判断された場合は受診する。ご家族や本人に話をして理解して頂く。状況によっては往診医からご家族様へ説明を頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	入居者の体調や状況に不安や疑問があった場合は、訪問医や看護師に連絡し指示を頂き支援している。1週間に1回訪問看護往診があり、必要と判断された場合は、訪問医との連携をとり支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供し、経過時は様子を見てご家族様へ状況報告したり、看護師又はご家族に話を伺い職員へ伝達し把握している。退院時は事前情報に基づいてケアプランの見直しを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居してから必要性がある場合やリスクのある方については早めに本人又はご家族と訪問医で話し合いを行い、方向性を共有し支援している。本人とご家族の意向でホームで終末期ケアを望まれる場合は出来る限りの支援体制は出来ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急搬送時の連絡、流れは統一して行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	自治会や運営推進会議に参加し、地域の協力体制や情報共有を行い、年に2回のホームでの避難訓練を実施し、地域の方にも参加の声掛けを行っている。自治会の避難訓練等にも参加し、避難場所の認識を高めている(コロナ感染拡大の為、中止になる事有)。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の性格を把握して、伝え方や話し方をその方に合わせた対応で行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で選択が出来る状況を作り、普段の生活の流れ以外に生活リハビリやレクで表現出来る場を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	したい事や次の行動に移る時の行動等を個々のペースを守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の服や夜の寝巻選びは本人で選んで頂いている。訪問カットや髭そり等の声掛けの他、希望がある場合は調整出来る様に行っている。買い物は一緒に行く事が難しい場合は欲しい内容を聞いて職員が対応している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々のADLのレベルに合わせて、生活リハビリとして準備時の手伝いを提供し、一緒に行える空間環境を作っている。時間になると自ら台所へ来たり、職員に手伝いの希望をしてくる為、受け入れ態勢は出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状況によって必要性のあるものをデータ作成し体調管理を本人と共に職員、又は管理栄養士（必要と往診医が判断した入居者の場合）と連携をとり取り組んでいる。（塩分や水分、食事制限等）		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来る入居者は声掛けと見守りを行い、出来ない入居者は出来る事をして頂き、出来ない部分の支援をしている。必要に応じて、歯科往診を提供している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の自立を目指しトイレの習慣を把握して統一した対応している。出来る事はして頂き、出来ない事については把握した上自尊心を傷つけない様に支援して行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食べ物や水分や軽度な運動を提供し、改善見込みがない場合は訪問医と相談し対応・予防をしている。日々の健康管理（水分量、食事量等）をし、報告出来る入居者にも協力して頂き、一緒に向き合っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	個々に合った入浴の流れを把握し、その方に合ったスタイルが出来る様に職員の統一と調整をして行っている。入居者の体調状況やADLの変動に合わせて職員が提供し、必要であれば一部介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間帯の睡眠時間や日中帯の休息の流れを把握し、日中帯は定期的に午前・午後と静養時間を設けて安心して過ごせる環境作りを実施している。(排便の状況で浅眠になる場合もある為、下剤等の調整を行ってある。)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の服薬している薬の把握して提供している。本人や家族等の質問に答えられる様に薬の内容をファイルに入れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	気分転換等出来る個々の生活リハビリや個人レクを提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は園庭内散策や日なたぼっこを提供している。本人の要望で買い物等に行けるように調整して出来る限り要望に努めている(現在、コロナ感染拡大の為、買い物は職員が支援している)。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はホームで管理しているが、持たたい方については職員全員が把握し安全に所持出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人より訴えがある場合は状況に合わせて手紙を書ける配慮や電話が出来る様に支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を出せるようにフロアの壁画飾り付け（春夏秋冬）や玄関先の壁画作成（前月分）で表現している。フロア内に前月分のレクの写真を貼り入居者と会話を楽しむ環境を作っている。安全を配慮した空間環境を保てる様に行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	問題が発生した場合は、職員がすぐ対応し改善できるように配置換え等環境を整えている。自分の気持ちや本音が出せる環境作りをしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	思い出のある物や家族写真、好きな色の物や以前から使用していた馴染みの家具等を居室に置いたりして、本人やご家族、職員で居心地良い空間作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の出来る事、分かる事を把握している。洗濯物干しの高さやごみ箱の配置、掃除器具や新聞紙の場所、文房具の置く高さ等の配慮し、危険のないように自ら使用できるように環境を整えている。		

2021年度

事業所名 グループホーム笑楽庵

作成日： R4年 6月 9日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	コロナ過におけるご家族様からの面会の要望 面会に代わるものの考案	現時点においては、条件付きではありますが面会につき緩和を行っており、今後の課題としては、ご家族様との外泊、外出の実施	4回目の予防接種に向け検討 ご家族様の予防接種の把握 コロナ発生率の把握 外泊につきご家族様のご自宅のみの検討を行っている	3ヶ月
2	21	コロナ過における、外出レク	現時点においては、内レク（施設内）及び施設周辺の軽い散歩等を行っているが、各フロアごとの遊行地への外出はできておらず、今後公園等、屋外への外出の考慮を行う	4回目の予防接種に向け検討 コロナ発生率の把握 比較的人手の少ない場所、日時の把握、検討	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月